

**TOPICS**  
**4**

## トピックス…④

# 乳用牛ベストパフォーマンス 実現会議とは

農林水産省は平成26年10月31日、わが国の生乳供給力を確保するため、乳用牛の泌乳能力と繁殖能力を最大限発揮させることを目的とする「乳用牛ベストパフォーマンス実現会議」を設置した。

最近の酪農をめぐる情勢は、飼養戸数の減少にともなう乳用牛の飼養頭数の減少や繁殖成績の低下等により、生乳生産量の減少が続いていることから、生乳生産基盤の確保が急務となっている。とくに、生乳供給力の確保のためには、乳用牛の増頭に向けた取組と併せて、コスト低減を図りながら、現在飼養されている乳用牛の泌乳能力と繁殖能力を、牛への負担を増やさずに最大限発揮（ベスト・パフォーマンス）させていくことが必要である。

そこで農林水産省は、「酪農生産基盤維持緊急支援事業」の一環として、乳用牛の繁殖・飼養・衛生管理における最新の知見を集約したうえで、生産現場における点検改善ポイントを情報発信し、乳用牛のさらなる生産性向上を図ることを目的として、有識者からなる「乳用牛ベストパフォーマンス実現会議」を設置した。

平成26年10月31日に開催された第1回会議では、最近の乳用牛の生産性に関する状況と繁殖・飼養・衛生管理面において解決すべき課題を整理した。

今後検討する具体的な課題（案）は以下の通りである。

## (1) 頭数の維持・拡大について

### 1) 乳用後継牛の確保

- ・どのようにして優良な乳用牛の性別別精液・受精卵を活用すべきか。
- ・どのようにして乳用後継牛の確保を図りながら和牛精液・受精卵の利用を図るべきか。
- ・どうすれば受胎率が向上するのか。
- ・優良な乳用受精卵の確保をするには、どうすればいいのか。

### 2) 分娩事故や子牛の事故率の低減

- ・妊娠牛の早流産や難産などの分娩事故を減らすにはどうすればいいのか。
- ・どのようにして妊娠牛、とくに乾乳期の適切な栄養管理を図るべきか。
- ・出生直後の子牛の事故率を減らすには、どのような飼養管理を行うべきか。
- ・子牛に初乳を給与する際には、どのようなことに留意すべきか。
- ・子牛の衛生管理を向上させるには、どのようなことに取り組むべきか。

### 3) 経産牛の供用期間の延長

- ・供用期間が短くなっているのは、乳用牛の高能力化や大型化、飼養形態の変化が原因ではないか。
- ・乳量が多い牛ほど供用期間が短くなっているのではないか。
- ・長命連産型の牛づくりをするには、どのようなことに取り組むべきか。
- ・乳熱や繁殖障害などの周産期病の発生を防止するにはどうすればいいのか。
- ・乳器障害や肢蹄故障を防止するにはどうすればいいのか。
- ・乳房炎の発生を防止するには、どのような飼養管理を行うべきか。
- ・細菌性乳房炎の発生を抑制するには、どうすればいいのか。
- ・過搾乳等を防止するための搾乳作業や搾乳機器のメイ

ンテナンスのポイントは何か。

- ・産次を重ねることによる体細胞数の増加を抑制する方法はあるのか。

## (2) 1頭当たり乳量の増加について

### 1) 暑熱対策の徹底

- ・夏場の受胎率を高めるにはどうすればいいのか。
- ・夏場の乳脂肪率を低下させないためには、どのような飼料給与を行うべきか。
- ・夏場に飼料の食い込みが悪くなるので、どのような取組を行えば改善するのか。
- ・暑熱対策として、牛舎構造や送風機・細霧器などの設置のポイントは何か。

### 2) 繁殖成績の向上

- ・近年、牛の発情の兆候が弱まっていると考えられるが、その理由は何か。どのようにして発情発見率を高めることができるか。
- ・乳量の大幅な増加が繁殖成績を低下させているのではないか。
- ・発情発見後の授精適期はいつなのか。
- ・人工授精を行う場合に、どのようなことに留意すべきか。
- ・性別別精液の受胎率が低い、どうすれば向上させることができるか。
- ・産次が伸びるほど受胎率が低下するが、どのようにして高めることができるか。
- ・無発情牛や繁殖障害牛を早期かつ的確に発見するにはどうすればいいのか。また、これらの発生を防ぐには、どのような飼養管理を行うべきか。
- ・乳用牛にとっての適切な分娩間隔は何日か。
- ・空胎日数が長い牛をどのようにして判断し、どのような対応をしたらいいのか。

### 3) 飼料給与の改善

- ・適切な栄養水準を確保するには、どのようなことに気をつけなければならないか。
- ・乳量を維持しながら濃厚飼料の給与量を抑えるには、どうすればいいのか。
- ・多頭飼育やTMRの給与が、濃厚飼料の多給につながっているのではないか。
- ・大型化・高能力化が進んでいる乳用牛に対して濃厚飼料の給与量を減らすと疾病等の発生が増加しないか。
- ・濃厚飼料の代替として、どのような飼料を利活用すべきか。

### 4) 乳牛の改良（遺伝的能力の向上）

- ・精液は、国産・輸入にかかわらず、本当に能力の優れた種雄牛が選択されているか。
- ・体型を重視するあまり、泌乳能力の劣った種雄牛を選定しているとの指摘は本当か。
- ・受胎率、空胎日数など繁殖形質に関する遺伝率は低いので、交配する種雄牛の能力として配慮する必要はないのではないか。
- ・総合指数（NTP）は様々な能力の総合評価値であるため、改良目的に合った種雄牛を選定することはできないのではないか。
- ・泌乳持続性を高めると乳量は減るのではないか。